

---

# 始まりの場所

ぱくどら

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

始まりの場所

### 【著者名】

ぱぐどり

### 【ノード】

N5212E

### 【あらすじ】

思い出の中の私たちはあの頃のままだった。だけど時間は止まる  
ことなく過ぎていく。

(前書き)

久しぶりに会った友達らと食事をした時に思ったことです。

始まりの場所は一緒だった。

それを確信できるのは、今こひして彼女たちと昔の話をしているからだ。

どの顔も昔の面影が残り、特別変わった者はいない。話し方や接し方、仕草が昔の私たちを思い出させてくれる。

なんでもないことで笑い合えるのは、まだ私たちがどこかで繋がっているからこそだと思える。

あれから何年も立つた。久しぶりのはずなのに、ついこの間まではしゃいでいた姿が残像として残っている。

始まりの場所。私たちが出会って、それぞれが道を進んでいった。幼さが残っていたあの時、あれからどう想像できただろう。

大人びた彼女たちから出てくるのは、昔の話。なんでもなかつたことなのに、懐かしく鮮明に思い出せる話。

とめどない会話。誰かが口を開けば、誰かが話に乗る。そしてそれは輪を広げていき、気づけば当時と変わらない姿へと変化する。このなんでもない会話が当たり前だったはずなのに、それが今では貴重な時間へと変化している。

始まりの場所。夢が大きく、何でも話していた私たち。

今現在の話に及ぶと、現実を突きつけられたような気分へとなつた。

今でも夢を追いかけている者。無事これから道を開けた者。ただ一緒にいたはずなのに、それぞれ道を精進している。

私は、と思う。

一緒にいた。あれから別れてからの道、一体なにがあつた。彼女たちと私の差は一体なんだったのだろう。

始まりの場所。かけがえのない思い出。

どれが正解で間違いなのか。楽しい会話の中で、彼女たちは、私の思い出の中にいる彼女たちよりも、今より一層輝いて見えた。面影こそ残つてはいたが、彼女たちは思い出の中の彼女たちではなかつた。それぞれ一生懸命で、胸を張り、成長していた。

そんな彼女たちを見つめる私に、彼女たちは「大丈夫」と一言笑つて言った。

「大丈夫」彼女たちもまた、昔の私を見ていた。変わつた者はいない、そう思つた。だが、一番変わつてしまつたのは私自身かもしれない。

「頑張る」私は笑つて答えた。

また始まるとめどない昔の会話。楽しい会話。なんでもない話、些細な話。どれをとっても楽しい会話へと変化する。

一体何が違つていたのか。

歩んできた道に後悔はしない。それなりの出会いもあれば、出来事もあつた。

それを話しても彼女たちは聞いてくれる。当時の面影のまま、私を認めてくれる。

同じ場所にいた、始まりの場所。

一緒の時を過ごした時間はかけがえのない宝物。

それはこれから一生ない、繰り返すことのない宝物。この楽しい時間、彼女たちの会話さえも宝物と思える。

彼女たちと私、何があつても搖るがない繋がりで、これからもそれぞれの道を進んでいく。

## (後書き)

先日、中学校の時のクラブ仲間と食事に行きました。7人いました。みんな中学校を卒業してから別れてしましましたが、お互いのことを忘れてはいません。面影も雰囲気もそのまま。ですが、話を聞いているうちにそれぞれ自分の目標を持ち、その目標に向かつて懸命に毎日を過ごしていることがわかりました。それを聞いたとき、自分は一体何をしているんだと思ったのです。今は就活の身です。これから的人生を決める大事な時期です。なのに、自分のしたいことさえ曖昧。

なのに友達たちはそれに向かつて頑張っている。  
内定もらつたどうのこうのではありません。

その目標に向かつて頑張つているといふことがものすごく羨ましいと思つたんです。外見こそ面影が残つているものの、内面は昔とは全然違つていたんです。

ですが、そんなことは当たり前だと、思われるだらうし私もそう思います。

あの同じ場所に立つていたのに、同じスタート地点だつたはずなのに、と思つてしまふ私。

どうしようもなく、自分を愚かだと思う私。

私の目から友達が成長したと思えるのなら、友達から見た私はどう映つっていたのか。

気になるのが本音ですが、まだ間に合つ。

友達が今頑張つているなら私も頑張れるはず。視点を変えれば物事も変わつた見方へと変化するはずです。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5212e/>

---

始まりの場所

2010年10月8日22時50分発行